

## 1人1台端末の利活用に係る計画

### 1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

全ての学校で、各校の実態に応じた1人1台端末の主体的な活用を推進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。端末の効果的な活用により、児童生徒が自身の活動を客観的に捉えることで課題を見つけられるようになる、児童生徒同士の闊達な意見交流が実現することで自身の考えを一層深めることができるようになるなど、ひとりひとりの資質・能力の育成を目指す。

### 2 GIGA第1期の総括

本市では令和2年度までに1人1台端末をはじめ、電子黒板及び書画カメラ、無線LANなどの環境を整えた。令和2年から5年間の計画で、9校の小・中・高等学校を「研究協力校」に指定し、市内各学校における1人1台端末の活用モデルとなることを目指して、取り組みを行った。あわせて、これまでの取り組みから浮かび上がった課題をもとに、1人1台端末の活用が進んでいない学校を「重点支援校」に指定し、ICT会議の実施支援とICT支援員を重点的に派遣して訪問支援を行った。授業中のICT機器の活用支援に加え、教員のICT活用スキルの向上のためにミニ講習会を開催するなどし、校務のデジタル化についても幅広い支援を進めた。また、重点支援校への支援以外に姫路市全体106校への支援として、ICT支援員の要請訪問による支援や教職員研修も行ってきた。その結果、Google Classroomの活用やデジタルドリルの利用が増え、1人1台端末の日常的な活用が定着してきた。これらの取り組みにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が少しずつ実現するようになった。

今後の課題としては、1人1台端末の活用内容をさらに充実させ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す授業改善、各学校が自校の実態に合わせて活用を進める学校の自走が挙げられる。端末活用の底上げにとどまらず、研究協力校での実践や、ICT環境に戸惑いの少ない若手教員の実践を広め、子どもの資質・能力の育成につながる取り組みを進めていく。

### 3 1人1台端末の利活用方策

#### (1) 1人1台端末の積極的活用

1人1台端末活用の底上げを図るため、各種研修の中でICT活用に関する理解を深める機会を設ける。研究協力校や重点支援校への支援も継続し、その取り組みを市内に広めて活用のモデルとする。また、ICT支援員の要請訪問も継続し、実態に応じて支援を必要とする学校に重点的に支援を行う。これらから教職員が1人1台端末を学校生活や授業の中で効果的に活用するための知識や技術を学び、多様な児童生徒たち一人一人の資質・能力の向上を図る。

#### (2) 個別最適・協働的な学びの充実

様々な学びのコンテンツを利活用できるメタバース（インターネット上の仮想空間）型の学習プラットフォームを構築し、楽しく学べる学習コンテンツを追加することで、児童生徒の学力や興味に応じた個別最適な家庭学習をサポートする。

#### (3) 学びの保障

1人1台端末を活用した「心の健康観察」事業として、児童生徒が毎日1人1台端末に心身の状態を記録し、教職員がその状況を把握することで、児童生徒が発するSOSを早期に発見し、きめ細かなケアを実施する。